2）地域支え合いネットワークつながりマップ（千種版）の作成と活用

地域の様々な相談窓口や「地域における支え合い事業」で助け合い・支え合いをしている団体・施設などを紹介する目的で「地域支え合いネットワークつながりマップ（千種版）」を作成しました。この「つながりマップ」は、地域の様々な相談窓口・サポートを一目で分るようにし、公的な窓口と生協のネットワークを分りやすく整理しました。（地図と窓口一覧）地域で活動する団体・グループがまず活用を図っています。（つながりマップ作成部数２０００部）

◆２０１２年１２月５日開催の「安心して暮らせる地域づくり交流会」で発表・配布

3）もしもし電話相談の取り組み

地域の中に「困ったときに相談できる場があるといい」という声があります。そういった声にどのように応えられるか、コープあいちの「困りごと相談」のしくみを地域の方々にお知らせし、期間限定で取り組みました。実際の電話相談は５件でしたが、「これまで病気などすると困っていました。継続的にこういった窓口があると助かります」との期待の声が寄せられました。

◆取り組み期間　２０１３年１月９日～２月１０日（水・土・日の３日間の受付）
　案内チラシ３０００枚を中日新聞に折込

4）「くらしの要望アンケート」調査活動の分析　（詳細はＰ３７～４５に掲載）

① 千種区に在住するコープあいちの組合員の要望などを把握することにより、地域での支え合いの実情と課題の一端を明らかにし、その解決のための具体的な方策を探ることを目的に調査を実施しました。アンケートは２０１２年１１月１２日～１７日に手渡しで届け、１２月３日～８日に回収しました。

② 調査の結果は、グループ購入の利用者９００人にアンケートを配布し、３９２通の回答を得ることができました。その他、お店の買い物支援利用者から１０通、ボランティアグループ月木会のお弁当利用者から２６通の回答がありました。

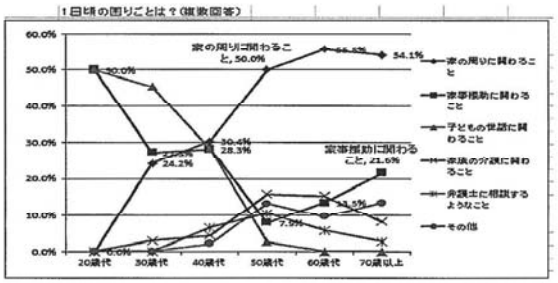
③ 調査結果の概要（グループ購入利用者分）

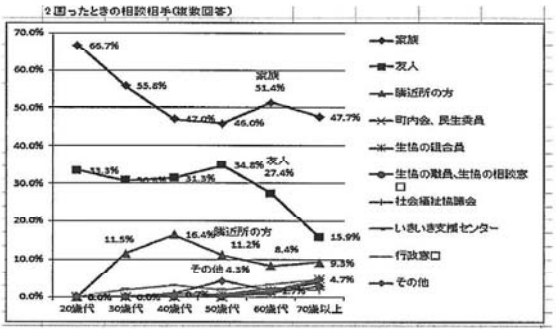
○ 回答者家族の構成数は、１人が 5.4%、２人が 30.4%、３人が 23.5%、４人が 26.8%、５人が 7.9%、６人が 3.3%、その他が 2.9%となりました。

○ 家族の中の要介護者の有無は、回答者の年代により異なり、70 歳以上では 13.2%、60 歳以上では 13.4%となっています。また、50 歳代で 5.6%、40 歳代でも 2.8%、30 歳代で 6.3%は要介護者は親世代と推測できるので、家族に要介護者を抱える世帯はかなり広い世代にわたって存在していることが確認できました。

○ 地域での支え合いの必要性は、回答者の年代にかかわらず、９０%以上が地域での支え合いが必要と回答しています。

○ 日頃の困りごとについては、回答者の年代によって異なっています。各年代を通して増加しているのは家の周りに関することで、50 歳以上では半数以上が困りごとにあげています。庭の手入れ、住まいの修理など家の周りの些細なことが、日常の困りごとにあがってくる実態に、どのように対応していったら良いかは地域の大きな課題と思われます。

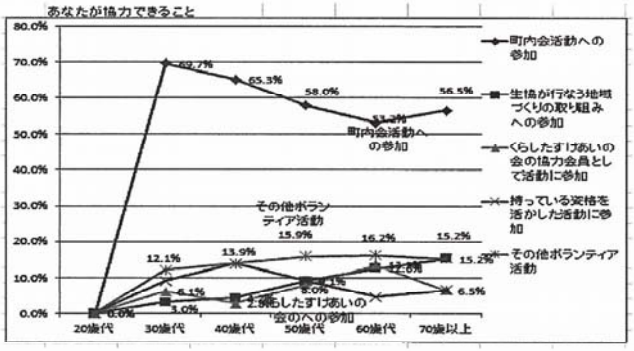




○ 困ったときの相談相手については、回答者の年代を通し「家族」が高い比率を占めました。しかし70歳以上では家族を相談相手にあげていない人が半数にのぼります。また、全回答者の中で19,4%が無回答で、特定の相談相手をもたない人が２割もあることへの対応が必要です。

○ 地域での支え合いの内容としては、「日頃の隣近所のお付き合い」99.3%、「困ったときに相談できる場」49.5%、「買い物や調理、掃除など頼むことができる」22.6%、「集まって悩みを共有できる場」21.3%、「弁護士など専門家に相談できる」15.1%などとなっています。

○ あなた自身が協力可能な支え合いの内容では、「町内会活動への参加」が年代を超え共通して選択されています。他ではボランティア活動への参加意欲が各年代で 10%を超えており、60 歳代では16.2%がボランティア活動に協力できると回答しています。こうした年代の人々の新たな参加をどう迎え入れることができるかは、ボランティア団体の課題と言えます。



④ アンケートの自由記載から「地域づくりの課題」や「生協に期待すること」

○ 隣近所で・・あいさつ活動、近所付き合い、井戸端会議

○ 町内会活動・・公園の掃除などの取り組みを通じ情報交換、できることを登録して主体的に参加、民生委員への期待

○ 社会福祉協議会など・・近いエリアで助け合う、地域のサロンづくり、気楽に参加できる場づくり

○ 生協に期待されていること

・生協の配達の日がみんなに会える唯一の場
・生協のお店は知った人に会い、声を掛け合う場
・高齢者にとって生協の配達担当はほっとできる
・生活文化会館の２階のフリースペースの活用
・若い人の年寄りの交流の場
・生協活動は地域づくり、安全な食べ物、生産者との交流、料理、子育てができる

（５）地域会議の１年間の取り組みのまとめ

１）地域会議の開催をして

① １年間４回の地域会議を開催し、延べ６６名の方々に参加していただくことができました。

② 様々な議論を通して、それぞれの活動を知りあい、顔が見える関係づくりの機会になりました。

③ 人と人が知り合いつながることで、ネットワークが形成されることを実感することができました。

２）話し合いの到達点

① 地域会議を通じ「はいかい高齢者おかえり支援事業」を知ることができ、配達のトラックをもつコープあいちの職場にサポーター登録を呼びかけることができました。

② 「くらしの要望アンケート」で町内会活動への参加希望の多いのに驚き励まされた。これからも粘り強く町内会への参加を呼びかけていきたいとの決意が述べられました。

③ 地域のニーズを取り上げて取り組む場合、できるだけ小さな単位で地域のみなさんが実感をもって取り組めるようにすることが重要なことがわかりました。

④ これからの時代は、「個」への対応をどうするかが重要で、新しい支え合いを作っていく上でも重要であることがわかりました。

3）今後の課題

① 買い物に困っている人は多く、今後どのように支援していくかは重要な課題です。生協やスーパーなど小売業が連携して商品を届ける仕組みを作っていくことなども検討したい課題です。

② 町内会活動への参加をもっと気軽に参加でき楽しいものにしていくことも重要です。「家族そろって参加しよう」という呼びかけが有効ではないでしょうか。

③ 居場所づくり、おしゃべりできる場づくりが求められています。その際、高齢者だけでなく子育て世代や若者なども含め多世代が集まれるという視点が大切です。

④ ボランティア活動への参加という点では、利用希望者とボランティア登録者をつなぐコーディネイとが重要です。

⑤ 地域の見守り（防犯なども含め）は、生協を含め企業・事業者の果たす役割が求められています。

（6）２０１３年度以降につなぐ取り組み

① 地域課題をみんなで議論し合う場は、なんらかの形で継続していくことが重要です。

② 住みやすい地域づくりのためにも、地域の様々な組織・グループができる範囲での力を寄せ合っていくことが重要です。

③ 生活協同組合が果たす役割として、生活情報の収集と発信及びそれを担う人の育成に取り組むことが要請されています。

コープあいちとして、生活文化会館２階のフリースペースの活用の具体化、地域の「困りごと相談」の継続的な受付を具体化していきます。

また、配達担当者の仕事と地域活動などを話し合う日常的な機会を設けることは、新しいコープあいちの組合員組織政策を具体化していく上で重要です。職員教育のあり方として検討していきます。